

参加者:

秋元、在原、岡部、北島、小海、
斎藤、島崎、田中、中島、並木、
安田、山岡、吉野、

ゲスト; 高橋紀子、山岸、

BMW RS Club

かわらばん

Mar 5, '06

3/5
関所破り(?)をしながら
伊豆~箱根を回った旅

かわらばん; 中島邦雄 挿絵; 小倉玲子

梅の古い呼び名に「風待草」と言うのが有るそうですが、この冬は日本列島がいつに無い厳しい寒さに包まれ、場所によっては「まだかしら」と春の風を待ちくたびれていた梅の木々も有ったことでしょう。桜と違い一輪また一輪とほころびる梅には、何か人を物思いに誘う風情が有るからか、それが春を待つ気持を一層かき立てるのかも知れません。

「熱海の梅園」では例年には散り始める梅がつい先ごろ満開を迎える、伊豆の河津桜が八、九分咲きになったというニュースや写真が新聞やTVを賑わしています。間もなく桜前線も伝わってくることでしょう。

そんな中で恒例通り伊豆方面へ向け、今年最初のツーリングが催行されました。都心の梅も一気に花開き愛らしいメジロが花の中を飛び回っています。桜や桃そしてアンズ等もその出番を待ちわび、渓流では土手に雪割草が顔のぞかせ、ヤマメや岩魚が餌を追いかける頃でしょうか。本格的な春がすぐそこまで来て足踏し、「Spring is just around the corner」という表現が正にピタリといった感じの今日この頃です。

このところ不順な天気が続いていましたが、この日は又と無い見事な晴天に恵まれました。皇居の回りの木々もつぼみを膨らませ、そこから首都高速に乗せて渋谷を過ぎると、雲一つ無い中に真っ白に雪化粧をした富士山が現れました。

♪春は名のみの風の寒さや～♪の歌詞の通り、風はやや冷たいながらも久々のツーリングに心は沸き立つ思いです。

集合地の東名「海老名SA」に着くと、3月6日に24節気の「啓蟄」を迎えた虫のように、この日を待ちわびた多くのバイクが集っていました。2~3箇所に集まっていた仲間が揃ってみると、我々には顔なじみの高橋紀子さんと別の仲間もゲストで加わり、久々に15台もの大所帯での出発となりました。田中さんはピカピカの最新四気筒車で登場し、島崎さんは事故に遭って愛車を全損で無くし、同じタイプの車を探しメタリック・グリーンと濃紺に見事に塗装した超ド派手なバイクでカムバックしました。21人の全メンバーのうち二人のゲストを除き、13人の参加とは見事なものでした。つい先日までメンバーだった鳥飼さんが見送りに現れ、近い内にバイクを買い再びメンバーになるからと言っていました。

御殿場インターに向かって走り出すと間もなく、青空の中で周囲の山々を従えるかのように、真っ白な富士山のお出迎えです。バイクで走っていても山登りをしていても、富士山が顔を出すと何か特をしたような気になるのは私だけでしょうか。

東名高速の山側を走る御殿場の右側ルートは、車も少なくスピードが出やすい為か、覆面パトカーが多いと聞きましたが、なるほど真っ赤なスポーツ・カーが白い覆面に捕まっています。聞くところによると何處かに隠れていて、連絡が入ると「それ」とばかりに飛び出すそうです。くれぐれも気をつけないと、我々のツーリングへの参加もおぼつかなくなります。

真っ白な富士山が我々に覆いかぶさるように段々と近付き、その胸ふところに吸い込まれるようにインターへと下りました。

すると安田さんがクラッチ・ワイヤーを支えるレバーのネジが飛んでしまい、高速上でクラッチが全く効かなくなってしまったとの事です。プラグ等のスペアは持ち合わせていますが、6ミリの太さで或る程度の長さも必要となると、調達するのは難しい話です。シートを外したり余分なネジは探しても無く、困っていたらなんと並木さんが以前に外したネジを持ち合わせ、サイズもピタリと合って事なきを得ました。以前に安田さんが彼に貸してあるタイヤ・パンドーは、このネジ一本で帳消しだとか、一杯おごれとか無事に直った後の外野のうるささに皆で大笑いです。

今朝の予報では箱根は雪の規制も無く走れるということ。予定通りに仙石原から湖尻へ向かいましたが、道路の処々には前日の雪が残っています。秋には周囲を銀色のススキが包み込む仙石原が、この季節には全く別の顔を見せていました。

そんな中で湖へと下り「竜宮殿」の前で左折をして杉木立の湖畔を走り、季節には色とりどりのシャクナゲで埋まる「山のホテル」を左手に見ながら、11時に今日のメインの安全祈願の為の箱根神社に到着です。数百年の歴史を秘めた大杉に囲まれた社殿に入ると、平素は無信心なくせに、柄にもなく身の引き締まる思いがしました。各々が少しばかりの賽銭で何やら神妙な顔をしながら参拝し、帰りしなに近くに居たお姉さんに頼んで、山門の前で記念撮影をしました。

11時半に混み合う湖畔を抜けて、箱根峠から伊豆スカイラインへと向かいます。東京を出てから真っ白に雪を被っていた富士山は、箱根に入り走る程にその姿を変え始めました。見る花も無いこのシーズンの箱根の走りには、見る場所によって様々に姿形を変えるこの山は、何とも心愉しい素晴らしい光景です。横山大観の気持ちも分かるというものでした。

お馴染みの箱根スカイライン入口に15台が揃い、安田さんが纏めて料金を払いました。そして各々がかっ飛び開始です。当初は亀石峠で出る筈が出発前に冷川に変えられましたが、別に何も疑わずにそのまま出口に向かいました。そして出口の近くでコースを外れ田舎道を国道へと降り、なんと玄岳までの一区間、¥100円を払ったのみで走り通してしまいました。地元の人は日常的に使っているようですが、よそ者の我々にとってこれは正に関所破りです。昔だったら大罪で箱根の関所破りは、男女を問わずに見せしめの為に磔(はりつけ)だったそうです。世が世だったら捕まれば高橋さんも湯もじ一枚で、我々と一緒にハリツケにあっていたかも知れません。しかしこれで昼飯代が幾らかでも浮いたかな~

国道に出てカーブの多い山中の道を上り下りして走ると、目指すお食事処、伊東駅に近い和食の「かっぽれ」に到着しました。だいぶ前にクラブで来たお店です。黄昏(たそがれ)時に辺りのお店に灯がともると、キットなまめいた感じになる処でしょうが、昼間は人気も無い静かな場所で、すぐ近くを音もなくきれいな川が流れています。12時の予約だったそうですが、12時45分に近くの大きな駐車場にバイクを入れ、「いらっしゃい!」の声に迎えられて奥の座敷に上がりました。

以前に此処へ来た時にはしこたま飲ましたが、近頃は禁酒が徹底した紳士クラブですから、それをキチンと守っているものの、矢張り飲みたくてメニューにノン・アルコール・ビールを見つけ、LOWENBRAUの小瓶を飲んでやっと人心地づきました。この店では地元で上がった魚のみを使っているそうで、日により季節によって魚は変わるそうです。名物は一抱えもありそうな朱塗りの椀に、刺し身やフライ、煮魚、香の物が入ったもので、今回はそれが五人前しか無くて、五人以外はとろろセットや釜飯セットを頼みました。わいわいガヤガヤやっている内に二時間ほどが過ぎ、「もう帰ろうよ」ということになりました。

二時前に腰を上げ帰途に就きました。この店にはフリスビーを投げると追い回す犬が居て、犬好きの私は再会を楽しみにしていたら、何処かの家に遊びに行っているとかで、今回は残念ながら会えませんでした。一度外に出ると思わず巡り合いや巡り合わせが有るものでした。

市内を抜けて海岸線に出ると、真冬の芽え

ざえとした海の色から、幾らかやさしい

春の色に変わりかけていました。

「春の海ひねもすのたりのたりかな」

の句を思わずには、些か時期限早の感じ

でしたが、海辺の風の香りや頬に当たる風の

感じから春は其処まで来ている思いを強くしました。

浜風を受けて干された浜沿いの干物がとても旨そうでした。

海岸線から「伊豆スカイライン」のサインに沿って左折し近くのスタンドで各々がガス補給をしました。亀石峠へ

向かって大きなカーブの道を駆け上がりましたが、この伊豆サイドは暖かいとみえ、何処にも

雪が見られませんでした。日だまりではピンク色の芽吹きも見られ、間もなく山笑うシーズンを迎える事でしょう

久々の晴天から上下ともに

車の数は多く、各車が黄色い線も見えないかの如くにすっ飛んでいます。

料金所に着いたら安田さんが全員のチケットが無いとの事で事務所に行ったら、慌てて亀石峠で受取らなかったという電話が届いていたそうです。

日が落ちて少し寒くなった中を箱根新道で山を下りました。この道は通行料が安いせいか、大型バスやトラックが多く何時でも込み合う道ですが、今回もあい変わらずの状態でした。以前には土産物屋の多い中を走って「小田原厚木道路」へは入りましたが、最近は新しい道が出来て一気に有料道路に入れました。快調に飛ばして厚木の料金所に着くと、大変な数の車が行列を作り、ゲートを抜けて高速道に入るまでの渋滞状況でした。「海老名SA」集結して解散となり各自が帰途に就きました。

なかなか望めないような見事な晴天に恵まれ、その上に大勢でとても楽しい一日を送りました。今回の幹事を務めた北島さん、ご苦労様でした。来月は斎藤さんの担当で4月2日に走ります。日ごとに暖かくなります。奮ってご参加下さい。

ps; 今回は私も含めて何台かのバイクがETCを装着して走りました。料金所でグローブを外したり金を出す必要も無く、混雑したゲートを一気走り抜けました。値段も安くなつたそうです。雨の時のことでも考えたらバイクこそその利便性が分かるでしょう。是非ともお試しあれ。